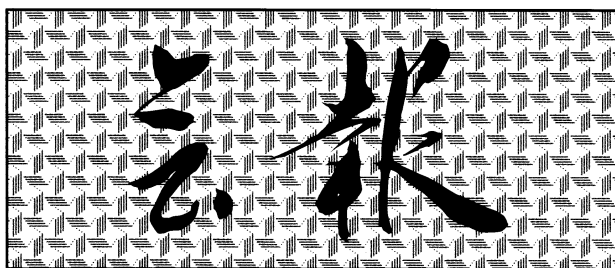




令和7年7月25日



発行
日本理化学協会
Japan Society of Physics
and Chemistry Education
会長 上村 礼子
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨
1-11-2 巣鴨陽光ハイツ206
TEL 03-3944-3290
FAX 03-3944-3295
<https://nirika.jp/>

探究心を育み人材を育成する理科教育の使命

日本理化学協会会長
東京都立多摩高等学校長 上村 礼子



令和7年度全国理科教育大会・第96回日本理化学協会総会は、岩手県において8月7日（木）から8月9日（土）の3日間で開催されます。大会運営委員長岩手県立北上翔南高等学校千葉勝幸校長先生をはじめ、岩手県の理科の先生

方には、本年2月26日から3月9日にかけて大船渡市で発生しました山火事で大きな被害を受けられた中でのご準備となりましたこと、敬意とともに心より感謝申し上げます。また、様々な校務の中、理科の授業研究への一意専心な取組を持ち寄り、理科教育の充実・発展を目指してご参加いただく多くの先生方にも感謝申し上げます。

今回の大会主題は『「全ての子どもたちの可能性を引き出す理科教育」－個別最適な学びと、協働的な学びの充実に向けて－』です。アイーナ（いわて県民情報交流センター）を会場とし、文部科学省講話では「多様で豊かな可能性を開花できる理科教育」の演題で、文部科学省初等中等教育局・教科調査官・真井克子氏からご指導いただきます。そして、記念講演では、国立天文台水沢VLBI観測所・所長・教授の本間希樹氏から「岩手発ブラックホール行き 銀河鉄道の旅」をテーマにお話を伺うことができます。研究協議では、「全ての子どもたちの可能性を引き出す理科教育」をテーマとして、物理、化学、生物、地学、教育DXの領域で有意義な議論がなされることが期待されます。さらに、研究発表では、授業実践に基づいた研究の成果も発表されます。令和6年12月25日の中央教育審議会諮問では、教科等において改訂すべき点として「質の高い探究的な学びの在り方」、「情報活用能力育成の抜本的充実を図る方策」などが問われています。このように次期学習指導要領への議論が始まりましたが、日本理化学協会の調査部及び教育課程検討委員会が実施している調査では、「探究」、「個別最適な学びと、協働的な学びの実現」、「ICT、DX、生成AIの活用」、「教育課程」に関して全国の理科の先生方の声がまとめられ、研究協議会で報告されます。

さて、5月11日（日）に日本科学未来館7階未来館ホールにおいて開催されました理科教育振興法制定70周年記念式典について報告いたします。

理科教育振興法制定70周年記念式典 式次第

- | | | |
|---------------|--------------------|---------|
| 司会 | 全国小学校理科研究協議会会長 | 飯田 秀男 |
| ①開式の辞 | 日本理化学協会会長 | 上村 礼子 |
| ②国歌斉唱 | | |
| ③式 辞 | | |
| | 理科教育振興法制定70周年記念会会長 | |
| | 日本理化学協会学術顧問 秀明大学教授 | 清原 洋一 |
| ④祝 辞 | | |
| | 文部科学省大臣官房文部科学戦略官 | 今村 聡子 |
| | 東京都教育庁指導部長 | 山田 道人 |
| | 日本理科教育振興協会会長 | 大久保 昇 |
| ⑤来賓紹介 | | |
| | 全国中学校理科教育研究会会長 | 石代 俊則 |
| ⑥記念講演「科学を楽しく」 | | |
| | 講師 東京大学 特別荣誉教授 | |
| | 東京理科大学 元学長 荣誉教授 | 藤嶋 昭 先生 |
| | 講演者紹介 日本生物教育会会長 | 鈴木 宏治 |
| | 謝 辞 日本地学教育学会会長 | 川村 教一 |
| ⑦感謝状贈呈・挨拶 | | |
| | 日本理科教育振興協会会長 | 大久保 昇 |
| ⑧宣 言 | 日本理化学協会顧問 | 仁井田孝春 |
| ⑨閉式の辞 | 日本数学教育学会会長 | 清水 美憲 |

式典は、上記次第（敬称略）のように執り行われました。宣言では理科教育振興法について、「70年前、理科教育への熱い思いをもった多くの先達の努力によって理科教育振興法が制定された。以来、この法律は、初等中等学校の理科および算数・数学教育の条件整備を促進し、わが国の科学技術の発展に大きく寄与してきた。」と述べられました。また、宣言により「理科教育振興法制定70周年を機に、私たちは21世紀の高度な科学技術を担い、科学と人間の関係について深く洞察できる優れた科学者・技術者を育てるとともに、すべての児童生徒に自然や身近な現象に対する科学的な見方を養い、探究心・好奇心を育むことが理科教育の使命であることを改めて強く自覚し、互いに連携、協力して理科教育の振興に尽力することをここに誓う」ことを、会場に参集した共催団体、理科教育関係団体で確認しました。

令和7年度全国理科教育大会
第96回日本理化学協会総会
岩手大会のお知らせ

岩手大会運営委員長
岩手県高等学校教育研究会理科部会長
岩手県立北上翔南高等学校長 千葉 勝 幸



平成9年の第68回大会以来、28年ぶりに岩手県で開催する運びとなりました。DX（デジタルトランスフォーメーション）の本質は、サプライサイド（供給側）からデマンドサイド（需要側）に移すこ

とであり、その目的は社会における新しい価値の創造です。岩手大会では「全ての子供たちの可能性を引き出す理科教育－個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けて－」を主題として、研究協議を設定しております。次期学習指導要領の議論も始まっており、大いに議論し、研鑽を深めて参りましょう。皆様のお越しを岩手にて運営委員一同お待ちしております。

1 大会主題

「全ての子供たちの可能性を引き出す理科教育」
－個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けて－

2 会 場

アイーナ（いわて県民情報交流センター）

3 日 程

〈第1日 8月7日（木）午後〉

常務理事会 全国理事会 文部科学省講話
研究代表者会議および研究協議会

〈第2日 8月8日（金）〉

開会式、総会、記念講演、研究協議、科学の広場

〈第3日 8月9日（土）〉

研究発表、コース別研修

〈第4日 8月10日（日）〉

コース別研修Aのみ

*「教育懇話会」は実施されません。

4 講話・講演

□文部科学省講話

演題 「多様で豊かな可能性を開花できる理科教育」

講師 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
文部科学省初等中等局教育課程教科教科調査官
真井 克子 氏

□記念講演

演題 「岩手発 ブラックホール行き 銀河鉄道の旅」

講師 国立天文台 水沢VLBI観測所
所長・教授 本間 希樹 氏

5 研究協議

- ①物理教育における個別最適な学びと、協働的な学びを実現するための授業づくり
- ②物理教育における個別最適な学びと、協働的な学びを実現するための実験・実習の工夫
- ③化学教育における個別最適な学びと、協働的な学びを実現するための授業づくり
- ④化学教育における個別最適な学びと、協働的な学びを実現するための実験・実習の工夫
- ⑤生物教育における個別最適な学びと、協働的な学びを実現するための授業づくりや実験・実習の工夫
- ⑥地学教育における個別最適な学びと、協働的な学びを実現するための授業づくりや実験・実習の工夫
- ⑦教育DXにおける理科教育について

6 研究協議

物理、化学、生物、地学の4分野

7 科学の広場

8月8日（金）10：00～16：45

8月9日（土）9：00～11：45

8 コース別研修 3コース（任意参加）

- ①Aコース 岩手の地形の体験（1泊2日）
- ②Bコース 銀河と世界遺産平泉（半日）
- ③Cコース 岩手山と農林畜産業（半日）

9 大会事務局

岩手県立北上翔南高等学校 教諭 佐藤浩之
〒020-0835 岩手県北上市相去町高前檀13
TEL 0197-71-2122 FAX 0197-71-2160
E-mail:ptf2-satou-hiroyuki@iwate-ed.jp

日本理化学協会 創立100周年記念式典報告

日本理化学協会創立100周年記念会 会長

日本理化学協会 学術顧問

東京理科大学特任副学長 西原 寛



来年（2026年）5月6日に日本理化学協会は創立100周年という記念すべき節目を迎え、2025年5月11日、これを祝う記念式典が盛大に開催された。協会の顧問を務めている西原寛が、「協会創立100

周年記念会」会長の立場から代表して式辞を述べる機会を得た。

日本理化学協会は大正15年（1926年）、嘉納治五郎先生をはじめとする先覚者たちの高邁なる志によって創設された。記念すべき第一回大会は、同年5月6日から8日にかけて大阪の清水谷高等女学校で開催された「全日本中等学校理化学教員協議会」であり、まさにこの5月が創立100年の節目に当たる。創設当時は、国を挙げて中学校や師範学校における物理・化学および博物（動物・植物・鉱物）の教育を充実させることが学術や産業の発展、さらには社会への貢献に直結すると強く信じられており、そうした国家的背景のもとに本協会の歩みが始まった。

初代会長の嘉納治五郎先生は「教育と人格の陶冶」を重んじ、科学の振興こそが国の礎であるという信念のもと、教育者を育てるための画期的な改革を推し進めた。その精神は協会に脈々と受け継がれ、百年にわたり理科の中等教育において極めて重要な役割を果たしてきた。

この間、世界大戦や社会の変革、科学技術の進展など幾多の試練があったにもかかわらず理科教育の精神と伝統は脈々と継承され、会員諸賢の不断努力と関係機関の支援によって発展を遂げてきた。戦後の理科教育復興期においても、本協会は理科教育振興法の制定を後押しするなど国の教育政策にも多大な貢献を果たしてきた。こうした歴史の中に、本協会の存在意義と使命が強く刻まれている。

現代においては、気候変動やエネルギー問題、生命倫理、デジタル社会の構築といった地球規模の課題が山積している。こうした時代において理科教育の役割はますます重要になっており、自然科学への関心と自由な探究

心を若い世代に育むことの意義は大きい。

とりわけ高等学校における理科教育は、次世代の科学技術者の育成にとどまらず、国民一人ひとりが物事を科学的に理解し、判断できる力を養う基盤である。式辞では科学的思考力や批判的精神、自然への敬意、真理を追究する姿勢の大切さを強調した。

日本理化学協会は今後も文部科学省をはじめとする関係諸機関と連携し、大学や産業界とも協働しながら我が国の高等学校理科教育のさらなる充実と発展に取り組んでいく決意を新たにした。また、創立100周年記念行事の開催に尽力された元会長・事務局長・顧問の菊池正仁先生が昨年5月11日に志半ばで急逝されたことに触れ、その命日である本日にあたり、深い感謝とともに哀悼の意を捧げた。

「百年の歴史は、次なる百年への出発点である」との言葉を胸に、協会創立の精神に立ち返り、理科教育の推進に誠心誠意努めていくことを誓うとともに、ご臨席いただいた皆様とその思いを共有できたことは大きな意義があったと感じている。

末筆ながら、ご臨席くださった皆さまへの感謝とともに、日本理化学協会のさらなる発展と皆さまのご健勝を心より祈念いたします。

日本理化学協会創立100周年記念会 実行委員長

日本理化学協会 顧問 赤石 定治



引き続き、日本理化学協会創立100周年記念式典について、開催までの流れ、当日の記念式典と参加された皆様、大会宣言と記念誌編集の報告をいたします。

1) 開催までの流れ

- ・平成30年（2018年）5月の全国理事会において、協会の100周年が2026年に実施されることを報告。顧問の富岡康夫先生を委員長とする準備委員会の設置を承認。
- ・令和元年（2019年）5月の全国理事会において、協会の100周年記念事業を2025年5月に実施することと準備委員会委員長を顧問の菊池正仁先生に、事務局担当を富岡康夫先生をお願いすることを報告。
- ・令和4年（2022年）5月の全国理事会において、理科教育振興法制定70周年記念行事と日本理化学協会創立100周年記念行事の同時開催を報告。

- ・令和5年（2023年）5月の全国理事会において、開催日を令和7年（2025年）5月11日とし、開催地は東京の日本科学未来館を候補として交渉すること、実行委員会を今年中に設置して令和6年2月の全国理事会で決定すること、また、理科教育振興法制定70周年記念会も中心となって担当する予定であることを報告。
- ・令和6年（2024年）5月11日に協会創立100周年記念行事準備委員会委員長の菊池正仁先生が急逝。
- ・令和6年（2024年）7月発行の会報で、両記念会の組織体制について顧問・関係役員での検討状況を報告。
- ・令和6年（2024年）6月より新たに両記念会の準備委員会を設置し、開催日までに準備委員会を13回、実行委員会を3回開催し、記念式典の企画・運営を行う。

2）日本理化学協会創立100周年記念式典次第

司会：日本理化学協会次期事務局長 田中義靖

- 1 開式の辞 日本理化学協会顧問 坂井秀敏
- 2 国歌斉唱
- 3 式辞 日本理化学協会創立100周年記念会
会長 西原 寛
- 4 祝辞 文部科学省初等中等教育局視学官 藤枝秀樹
全国小学校理科研究協議会会長 飯田秀男
全国中学校理科教育研究会会長 石代俊則
日本理科教育振興協会会長 大久保昇
- 5 来賓紹介 日本理化学協会顧問 宮本信之
- 6 協会の100年 日本理化学協会創立100周年記念会
実行委員長 赤石定治
- 7 感謝状贈呈・挨拶 大阪府立清水谷高等学校
校長 竹内伸一
日本理科教育振興協会会長 大久保昇
- 8 閉式の辞 日本理化学協会顧問 関 俊秀

3）両方及びどちらか一方の式典参加者人数は214名。

協会創立100周年記念式典の参加者人数は172名。内訳は、文部科学省11名、大阪府立清水谷高等学校（元清水谷高等女学校）4名、理科教育関係者7名、教科書業者等5名、日本理科教育振興協会22名、関連理科教育団体25名、日本理化学協会98名。

4）協会創立100周年記念式典大会宣言と記念誌編集

記念式典の大会宣言は令和7年全国理科教育大会（岩手大会）の大会宣言と合わせて実施。記念誌は令和8年3月発行予定。内容は日本理化学協会の歴史・全国各ブロックの思い出・100周年記念式典の概要・資料など。

理科教育振興法 制定70周年記念式典報告

理科教育振興法制定70周年記念会 会長
日本理化学協会 学術顧問 清 原 洋 一



令和7年5月11日（日）午後、日本科学未来館7階・未来館ホールにおいて、理科教育振興法制定70周年記念式典を開催しました。

本式典は、戦後の復興期、学校に理科機器がほとんど無かった時代、当時の有識者議員や現場の理科教員の方々の並々ならぬ努力と熱意により、昭和28年に議員立法として理科教育振興法が制定されてから70年の節目を迎えることを記念して開催したものです。当日は理数教育関係者約200名が参列し、会場の未来館ホールは満席となりました。

式典の冒頭には、本式典を代表して清原が「式辞」を述べました。ご来賓および関係者の皆様への謝意を表するとともに、理科教育振興法の制定に尽力された方々の熱意と行動に敬意を表し、これまでの理数教育の成果と課題、現状の展開、そして今後の理数教育の重要性について述べました。特に理科教育振興法が学びの基盤を支える重要な法制度であることを強調し、最後に、理数教育の輪が今後さらに広がり発展していくことを祈念して締めくくりました。

続いて「来賓祝辞」として、今村聡子氏（文部科学省大臣官房文部科学戦略官）、山田道人氏（東京都教育庁指導部長）、大久保昇氏（日本理科教育振興協会会長）よりそれぞれご祝辞を賜りました。

記念講演では、藤嶋昭先生（東京大学特別荣誉教授、東京理科大学元学長荣誉教授）が「科学を楽しく」という演題でご講演くださり、科学の楽しさに加え、その奥深さや魅力が強く伝わってくる内容でした。

その後、感謝状の贈呈とご挨拶が行われ、最後に「宣言」が読み上げられ、閉会の辞をもって本式典は終了いたしました。

本式典を通じて、改めて理科教育振興法の意義とこれを支えてこられた先人の功績を実感するとともに、参列者の皆様の理数教育への熱意を強く感じる事ができ、今後のさらなる発展への期待が高まる意義深い式典となりました。

令和7年度 新役員挨拶

理科教育のより一層の充実を願って

副会長（北海道ブロック）

北海道釧路江南高等学校長 伊藤 新一郎



このたび、前任の村田一平校長先生より北海道高等学校理科研究会会長を引き継ぎ、それに伴い北海道ブロック選出の本協会副会長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年12月に文部科学省は中央教育審議会に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」を諮問し、いよいよ学習指導要領の改訂に向けての議論がスタートしました。

文部科学省初等中等教育局教育課程課長の武藤氏は、「日本の学校教育や現行学習指導要領の良い部分は継承し、課題についてはしっかりと受け止め、乗り越えていくバランス感覚の良い議論をしていくには学校現場からのフィードバックも重要であり、このことが次期学習指導要領の成功の鍵を握っている。」と述べています。

本協会の取組をこれまで以上に国の教育に生かすとともに、私も微力ではありますが、理科教員の一人として我が国の理科教育の発展・充実に寄与できるよう努力して参ります。

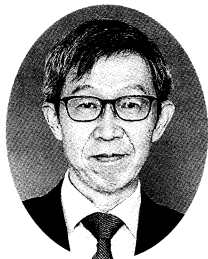
理科教育の発展を願って

副会長（東北ブロック）

宮城県高等学校理科研究会会長

宮城県村田高等学校長

安斎 善和



前宮城県古川高等学校長牛来拓二先生の後任として、今年度東北ブロック副会長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

東北ブロックでは、8月に岩手県盛岡市で全国理科教育大会・日本理化学協会総会が開催されます。

隣県・岩手県の大会開催に御尽力

なされた皆様に心より敬意を表すると共に、改めて本会の歴史のあゆみ、社会的功績の大きさに思いを巡らせております。

さて、宮城県高等学校理科研究会は、物理、化学、生物、地学、理科実験の5部会から組織されています。年間を通して全体会総会や役員会が行われ、部会ごとの総会・研修会等は会員相互の貴重な交流の機会となっています。また、同会長は宮城県高等学校文化連盟自然科学専門部長を兼務しており、両組織が協力して「生徒理科研究発表会」や「生徒研修会」を運営しています。こうした取組が、本県高等学校理科教育の発展・充実に大きく寄与してきたものと自負しています。

本県では平成29年に、第41回全国高等学校総合文化祭（みやぎ総文2017）が開催されました。これを契機として、県内の理科教職員、大学関係者等が力を合わせて組織体制の強化を図り、大会準備・運営にあたると共に、

大会終了後も生徒理科研究の発展に力を尽くしてきました。「みやぎ総文2017」開催から8年を経た今も県高文連自然科学専門部の活動は充実しており、近年、本県生徒の全国高総文祭での入賞が続いていることを大変嬉しく思っています。

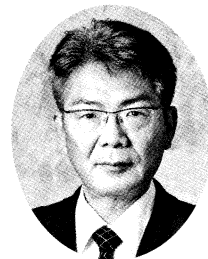
役職定年を迎える今年度、理科教育の発展を願い、微力ながらも力を尽くして参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

理科教育におけるICTの活用

副会長（東海ブロック）

愛知県理科教育研究会高等学校部会物化部会会長

愛知県立天白高等学校長 大谷 弘直



本年度、愛知県が東海ブロックの担当県を務めさせていただくことになりました。各県との連携と情報共有を図りながら進めてまいりたいと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、教育の現場において、ICT環境の整備と生成AIの活用が話題となっています。特にDX

における理科教育の指導法については多様な課題が山積していますが、理科という科目の特性を踏まえたICTや生成AIの効果的な活用方法の確立が求められていると考えています。具体的には、実験や観察などの体験的学びを補完するデジタル教材の活用、生徒一人ひとりの理解度に応じた個別最適化学習の推進、更には生成AIを用いた思考の深化や問題解決力の育成があげられます。

微力ではございますが、これらの変化を前向きに捉え、生徒の好奇心や探究心を引き出し、科学的な思考を育む道具としてICTの積極的な活用を推進してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

新時代に対応した 科学技術を創造する理科教育

副会長（北信越ブロック）

石川県立羽松高等学校長

岡野 清



今年度、北信越ブロックは石川県が担当させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、令和6年の能登半島地震及び奥能登豪雨により、お亡くなりになられた多くの方々のご冥福を謹んでお祈りするとともに、被害に遭われた皆様に心からお見

舞い申し上げます。これらの災害にあたり、全国の皆様から心温まる励ましのお言葉と多くの義援金を頂戴しましたこと、誠にありがとうございました。ご支援・ご協力は児童生徒を勇気づけ、未来に向けてたくましく歩む支えとなっておりますこと、重ねて深く感謝申し上げます。

さて、本年度は8月5日（火）・6日（水）、野々市市にて北信越理科教育研究会を対面形式で開催します。北信越各県から多数のご参加をいただけるよう準備を進めているところです。

AIやIoTなどの急速な技術の進展による社会の激しい変化の象徴として、2024年のノーベル物理学賞は今日の

AI時代を拓いた2名に贈られ、またSTEAM教育等の教科等横断的な学習の推進や高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)が行われています。

そこで、北信越大会の主題は「新時代に対応した科学技術を創造する理科教育」～急速な科学技術の進展を支える人材を育成する探究的活動～と致しました。

2015年のノーベル生理学・医学賞を受賞しました大村智博士が2022年の七尾高校での講演で、牛の皮膚病の治療薬ナナオマイシンは「七尾城跡近くの土の菌から見つけた」と明かすと、高校生から驚きの声が上がりました。また、微生物を片っ端から調べる研究は「泥をかぶる仕事」と表現し、「大変だが、泥をかぶったからこそノーベル賞につながった」とも語られました。

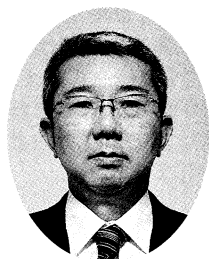
時代がいかに変化しようとも、エネルギーや資源の乏しい日本はその不足を補うため、叡智を結集した科学技術立国でなければなりません。そのためには、前任の内藤先生のお言葉の通り、理科教員の持つ実験法や授業法のノウハウは、燃やすべきではなく、積み重ねるべきものです。理科の研究会は先生たちの実験開発力を高めるのが最終目的ではなく、生徒の理科の力を高めるのが目的だからです。授業の方法や実験法を継承しながら進歩させるために、理科の研究会の発展に尽力したいと思います。

理科教育の充実と発展のために

副会長(近畿ブロック)

兵庫県高等学校教育研究会科学部会長

兵庫県立北須磨高等学校長 津田 量



今年度、近畿ブロックは兵庫県が担当させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

近年、世界や日本の各地で地震や豪雨などによる自然災害、また、ウクライナとロシア、イスラエルとイラン等の戦争や紛争などが相次ぎ、世界や日本をとりまく情勢

が不安定になり、被害を受ける人たちが増加しています。このような災害を未然に防ぎ、被害にあわれた人たちの助けるためにも、科学技術の発展やさらなる研究開発が求められています。また、予測が難しい今後の社会にあっては、探求力を持った人材の育成が必要であり、理科教育の果たすべき役割は非常に大きいと考えています。

微力ではありますが、理科教育の充実と発展のために尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

鳥取で取り組む理科教育

副会長(中四国ブロック)

鳥取県東部地区高等学校理科教育研究会会長

鳥取県立鳥取東高等学校長 原田 晋一



本年度、中四国ブロックを鳥取県が担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

鳥取県東部地区高等学校理科教育研究会は、県内東部地区の約50名の高校理科教員が所属しています。年間2回の活動を基本としており、前期は理科教育に関わりの深い県内企業や施設、大学等の研

究機関への訪問を実施しています。また、後期は研究員の実践活動の報告や大学等の有識者による講演会等を実施しています。

近年の前期企画では、アカショウビン、コノハズク、オオコノハズクといった希少な野鳥が観察できる地元キャンプ施設を訪問し、環境保全を第一とした持続可能な観光を通じて、自然と調和した地域コミュニティの発展に寄与する取り組みを学んだり、県産業技術センターを訪問し、高度技術支援、研究開発、人材育成等で本県産業の発展に寄与する取り組みを学んだりしました。このように、教員が地域の取り組みを学ぶことで、理科教育の深さを追求できていると思います。また、後期企画では、県内有識者を講師に招聘し鳥取県の鳥獣被害と対策について講義していただいたり、県内大学教授に最先端の化学研究についてご教授いただいたりしました。また、研究員による実践発表も行い、自然科学部の活動や教材開発にともなう研究内容を報告してもらいました。

このように、物理・化学・生物・地学分野に係る内容で高校理科教育の充実を図るために、学校の枠を超えた組織として小規模ではありますが活動を継続しているところです。

つながりが育む理科教育の創造と探究

副会長(九州ブロック)

九州高等学校理科教育研究会会長

熊本県立東稜高等学校長 藤本 浩明



このたび、九州ブロックの代表を務めさせていただくことになりました熊本県の藤本と申します。令和5年度にも一年間、同代表を仰せつかっており、今回再びお引き受けすることとなりました。どうぞよろしくお願いいたします。

九州地区では「九州は一つ」という合言葉のもと、理科教育に携

わる先生方が県の枠を越えて協力し、実践を積み重ねています。その中核となっているのが「九州高等学校理科教育研究会」です。今年度は第63回佐賀大会として7月31日(木)と8月1日(金)の2日間、佐賀市内で開催されます。

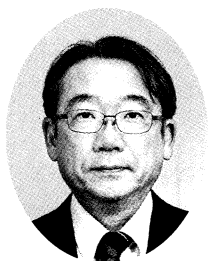
今回の大会テーマは「新しい時代に求められる資質・能力を育成する理科教育」です。急速に変化する社会やSociety5.0といった新しい時代を迎える中で、科学的に探究する姿勢や自ら課題を見つけて考え抜く力をどう育てていくかがあらためて問われています。学習指導要領に基づいた各地の実践や成果を持ち寄り、これからの理科教育の方向性を一緒に考えていく、そんな機会にできればと思っています。

熊本県でも、教員同士の学び合いを大切にしながら、さまざまな自主研修が行われています。たとえば、化学の「化楽の会」、物理の「?(はてな)の会」など、日々の授業改善や教材研究に取り組む先生方が積極的に集い、互いに学び合う場が広がっています。こうした活動が現場の理科教育を着実に支えてくれていると感じています。

未来を担う子どもたちのため、そしてこれからの社会に必要とされる力を育むために、私たち教員自身も学びを止めず理科教育のあり方を問い続けていくことが大切だと感じています。これからも皆様と力を合わせて取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局長就任にあたって

日本理化学協会事務局長 田 中 義 靖



この度、富岡康夫先生の後任として、日本理化学協会の事務局長に就任いたしました。

平成14年度（2002年度）の全国大会（宮崎大会）から昨年度まで、ほぼ毎年、教材研究の成果を発表してきました。その間に、多くの先輩方や同年代の先生方と交流でき、充実した教員生活を送ることができました。

東京都の教員としては、3校でSSHの主担当を務め、東京都理化教育研究会の事務局長として平成26年度（2014年度）の東京大会の運営に関わったり、仲間たちとの教材研究の成果をまとめて書籍化したり、理科教育の発展に尽力してきました。

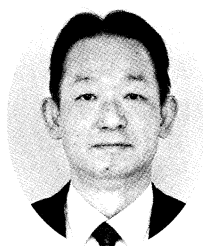
平成16年度（2004年度）からは、研究部の理事として協会に関わってきました。令和2年度（2020年度）には、研究部長として（コロナ禍による）誌上発表という形で全国大会の運営に関わりました。翌年度のオンラインによる全国大会も運営に関わりましたが、このように協会の活動がコロナにも負けずに継続したことに、当時感動したことを覚えています。

平成26年（2014年）には所属していた都立戸山高校で理科教育振興法制定60周年式典が開催され、運営側で参加しました。その縁もあって、昨年度末に都立高校の教育現場から退いた際に、理科教育振興法制定70周年記念式典と日本理化学協会創立100周年記念式典に運営側で関われる機会を得ました。日本理化学協会創立100周年記念式典の方では司会を務めさせていただき、協会の歴史の重みを強く感じました。

このようなご縁が続き、この度、事務局長に就任しましたが、協会の歴史の重みを大切にしながら、昨今の「SSH校からの普通校への探究活動の普及」、「教科横断的なSTEAM教育の意義の深化」、「学校現場のDX化」、「学習の個別最適化」といった動きに対応しつつ、歴代の会長や事務局長の先生方の力をお借りし、会長の思いの実現と会員の皆さまの教育活動の充実のために尽力してまいります。

令和8年度全国理科教育大会 第97回日本理化学協会総会 新潟大会のお知らせ

新潟県高等学校教育研究会理科部会副部長
新潟県立松代高等学校校長 田 邊 康 彦



令和8年度全国大会、第97回総会を新潟県で開催することとなりました。本大会では、世界的にも高い技術力が評価されている金属加工で有名な燕三条地域を会場に、「探究心を育む理科教育－地域産業との連携で探る、新たな価値の創造に向けて－」を大会主題として設定しているところです。また、開催予定日の前日と前々日には、日本三大花火大会の一つに数えられている長岡花火も開催されます。是非、長岡花火の観覧も兼ね、多くの皆様からの参加をお待ちしています。

1 開催日時

令和8年8月4日（火）～8月6日（木）

2 会場

三条市立大学

3 日程（予定）

第1日 8月4日（火）

12:00～12:50 常務理事会

13:30～14:30 全国理事会

14:30～15:30 文部科学省講話

15:30～16:50 研究代表者会議並びに研究協議会

第2日 8月5日（水）

9:15～10:05 開会式

10:05～11:00 総会

11:00～12:30 記念講演

12:30～13:00 写真撮影

9:30～16:45 科学の広場

14:15～16:45 研究協議

第3日 8月6日（木）

9:00～11:45 研究発表

9:00～11:45 科学の広場

13:30～ コース別研修

4 大会事務局

新潟県立見附高等学校 教頭 中村 公紀

TEL 0258-62-0080 FAX 0258-62-5033

事務局長退任の挨拶

日本理化学協会前事務局長 富岡 康夫



令和4年8月に開催された北海道大会から、塚越博顧問より協会事務局長を仰せつかりました。それまでの顧問としての立場から事務局長となって実務を遂行することの困難さを実感し、至らぬ点が多く、会員の皆様にはご迷惑をお

かけしたことをお詫びいたします。

令和7年5月に举行される本協会創立100周年記念式典及び理科教育振興法制定70周年記念式典が現実になっているなか、過去に会長として式典に関わってきたことを考えると数々のことが思い出されます。多くの先輩方が思いを寄せて現在に至ったことを思うと、日本理化学協会の益々の発展を願わずにはいられません。

本協会100周年記念式典では大正15年に協会が創立された地である現大阪府立清水谷高等学校の同窓の皆様を来賓としてお迎えすることができ、また、天皇陛下のご来臨を仰いで司会進行を務めた20年前の理科教育振興法制定50周年記念式典と同じ会場となる日本科学未来館みらいCANホールで今回も実施できたことは、関係された皆さまのお陰です。御礼申し上げます。



「理科教育振興法制定70周年記念式典で文部科学大臣祝辞を代読する今村聡子文部科学省文部科学戦略官」

事務局だより

- 2月2日(日) 工学院大学を会場に全国理事会を実施。
- 2月16日(日) 記念式典実行委員会委員全員で日本科学未来館を下見。
- 3月17日(月) 上村礼子会長と丸の内の日本工業倶楽部会館にて、東レ科学振興会表彰式に出席。毎年多くの高等学校の先生が理科教育賞を受賞している。西原寛日本理化学協会創立100周年記念会会長とお会いし、式典でのご挨拶を依頼。先生宛に会報等の資料を郵送。

4月10日(木) 上村会長と大学の藤嶋昭先生の研究室に伺う。式典の記念講演について詳細な打ち合わせをし、藤嶋先生に関する資料を受け取る。

5月10日(土) 工学院大学を会場にZoomで全国理事会を実施。その後、日本科学未来館に移動して式典会場を設営。東京都理化教育研究会の皆様等、多くの関係者で準備。

5月11日(日) 記念式典実施。参加者214名。

5月12日(月) 上村会長、赤石定治顧問、石崎裕行理振協会常務理事とともに文部科学省に伺い、前日の記念式典のお礼をする。大臣祝辞を述べられた今村聡子文部科学戦略官にお会いし、お礼を述べる機会を得た。

5月14日(水) 永露浩明教育情報委員長、田中義靖次期事務局長と協会のホームページやメールアドレスについて相談。20年以上使用しているため不明な送信者からのメールに迷惑しセキュリティに問題があるため、特に以下のメールアドレスに変えて試用を始めた。

協会事務局メールアドレス jimmu@nirika.jp

5月22日(木) 上村会長、次期田中事務局長とともに東京ガーデンパレスにて日本理科教育振興協会総会に出席。大久保昇会長が記念式典での感謝状贈呈の映像を映し、お礼を述べられた。また文部科学省教育課程課長を始め事務方、理数系の視学官、教科調査官、全国小学校理科研究協議会役員、全国中学校理科教育研究会役員と交流。

6月2日(月) 岩手大会の文部科学省後援を申請。今回は5月11日の式典後援報告の後に申請のため例年より2か月遅く、岩手大会2か月前の期限直前となった。

6月3日(火) 塚越顧問(前事務局長)とともに埼玉県立川越南高等学校校長 石井良夫監事、群馬県立高崎南高等学校校長 徳江和彦監事の各学校へ監査を受けに直接伺い、無事終了。

6月12日(木) 調査部のZoom会議に参加し、アンケートの調査方法を新たに作る議論を行った。

6月14日(土) 藤嶋昭先生に東京理科大学葛飾キャンパス完成式典でお会いした。5月11日の記念講演(演題「科学を楽しく」)のお礼を伝えた。

7月4日(金) 巣鴨駅前ルノワール会議室で部長会実施(14名出席)。岩手大会の準備状況を確認し、検討事項を話し合う。研究部より日本理化学協会賞の該当者なしが報告された。

広報編集部 編集委員

○塩崎 智之 海老澤貞行 三池田 修 森田 有宏
小林 寛和 金田 和久 小坂美貴子